

# 令和4年度全国学力・学習状況調査結果（中学校）

## 中学校・国語

分類	区分	国語			
		久喜市	埼玉県（公立）	全国（公立）	
全体		69	70	69	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.8	72.2	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	48.0	48.3	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.0	71.6	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.9	64.3	63.9
		B 書くこと	48.0	48.3	46.5
		C 読むこと	68.6	69.2	67.9
問題形式	選択式	72.7	74.8	73.7	
	短答式	69.2	70.2	70.3	
	記述式	60.8	58.7	57.4	

## 中学校・数学

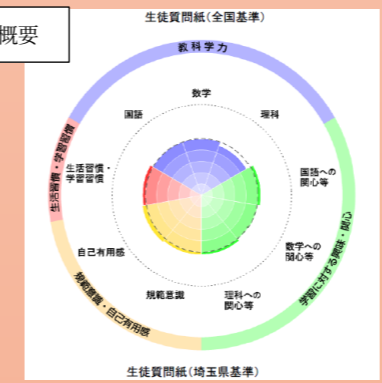
分類	区分	算数		
		久喜市	埼玉県（公立）	全国（公立）
全体		51	52	51.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	56.2	56.9	57.4
	B 図形	42.5	44.2	43.6
	C 関数	43.4	44.3	43.6
	D データの活用	59.3	58.2	57.1
問題形式	選択式	51.7	52.8	52.6
	短答式	63.9	65.8	65.7
	記述式	38.1	36.8	36.2

## 中学校・理科

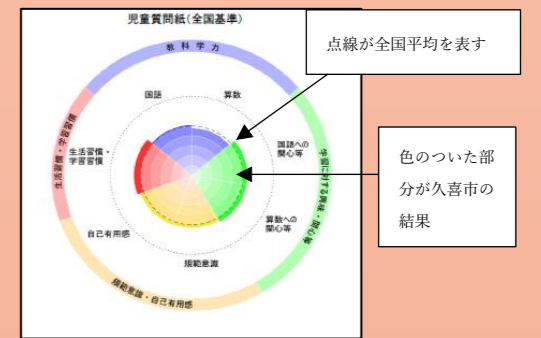
分類	区分	理科		
		久喜市	埼玉県（公立）	全国（公立）
全体		47	49	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	39.5	41.1	41.9
	「粒子」を柱とする領域	48.9	50.5	50.9
	「生命」を柱とする領域	56.5	57.9	57.9
	「地球」を柱とする領域	42.6	44.1	44.3
問題形式	選択式	47.5	49.1	49.6
	短答式	25.3	25.1	24.8
	記述式	51.3	53.2	53.5

## 中学校・質問紙調査

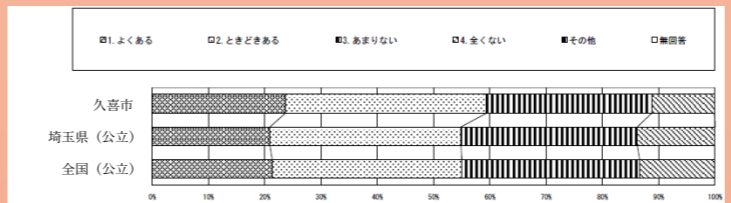
### 質問紙調査 概要



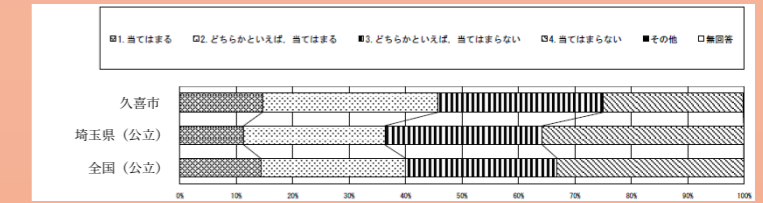
### チャートの見方（例）



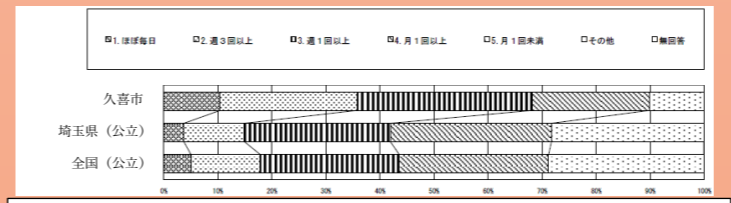
問 自然の中で遊ぶことや事前観察をすることがありますか。



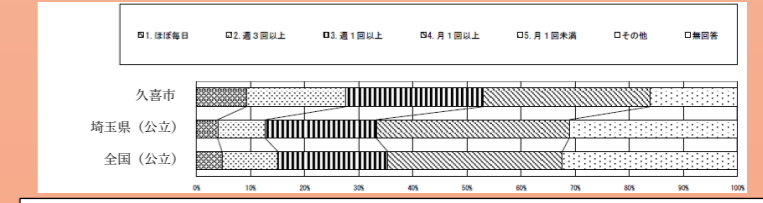
問 今住んでいる地域の行事に参加していますか



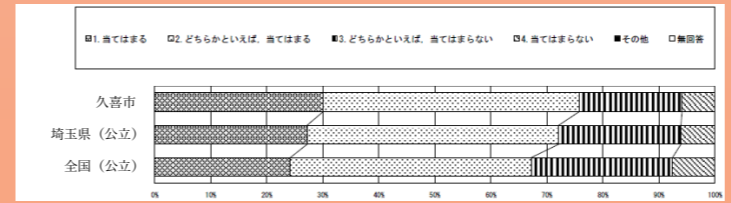
問 学校で、学級の生徒と意見交換をする場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



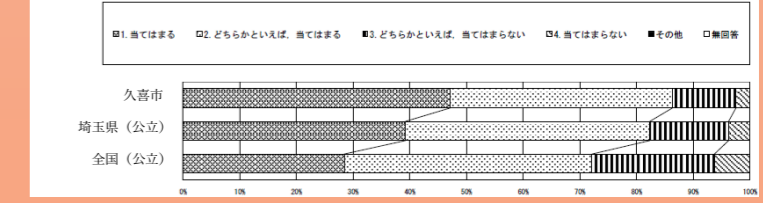
問 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。



問 1,2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行いましたか。



問 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



### ◆成果と課題（○：成果 ●：課題）

○成果（○：全国平均を上回った ▼：全国平均を下回った）

国語		令和4年度 全国平均正答率との差	数学		令和4年度 全国平均正答率との差	理科		令和4年度 全国平均正答率との差
全体	国語	-	全体	数学	▼0.4	全体	理科	▼2.3
学習指導要領の内容	「我が国の言語文化に関する事項」	▼1.2	領域	「数と式」	▼1.2	領域	「エネルギー」	▼2.4
	「話すこと・聞くこと」	○3.0		「データ活用」	○2.2		「粒子」	▼2.0
形式	「選択式」	▼1.0	形式	「短答式」	▼1.8	形式	「短答式」	○0.5
	「記述式」	○3.4		「記述式」	○1.9		「記述式」	▼2.2

国語においては、「思考力、判断力、表現力等」及び記述式等で全国平均を上回った。特に、問題形式別の「記述式」では全国平均を3.4と大きく上回った。数学においては、全体的には、やや全国平均を下回る結果となった。しかし「データ」では全国平均を2.2と大きく上回った。理科においては、全体的には、やや全国平均を下回る結果となった。

●課題  
国語においては「行書の特徴を理解する問題」の正答率が低かった。数学においては「自然数を素数の積で表すことができる問題」「反例の意味を理解している問題」「一次関数の変化の割合の意味を理解している問題」の正答率が低かった。理科においては「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力問題」「液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題」「実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる問題」の正答率が低かった。これらを課題として、CBTによる市独自の学力調査を毎月実施し、その中で課題のある領域の問題を出題するとともに、一人ひとりの正答状況に合わせた補習問題を提供する、また学習系アプリの利用を促進する等、ICTを活用した「個別最適な学び」を推進し改善を図る。

